

# 平和構築



\*SDGsの17の目標のうち、関連のあるものを示しています。

## 紛争が発生・再発しない国づくりをサポート

### 課題の概要

武力紛争は人々の暮らしを根底から変えてしまいます。仕事や学校に行くことや、買い物や病院に出かけること、それまで普通だったことができなくなり、多くの人々が安全な生活を奪われ、住み慣れた土地からの避難を強いられます。紛争が終結しても、一度壊れてしまった社会システムを再構築し、経済・社会を再建し、平穏な生活を取り戻すには、息の長い取り組みが必要です。

紛争の発生や再発を予防し、平和を定着させるには、軍事的手段や予防外交などの政治的手段による対応とともに、社会的な格差、機会の不平等など、紛争の引き金となる問題の根本的な解決に取り組む必要があります。インフラの再建だけでなく、国民のニーズを公正に汲み上げて対応できる体制づくり、そしてコミュニティや人々のエンパワーメントが平和な国づくりに不可欠です。

### JICAの取り組み

JICAは、紛争が発生・再発しない国づくりを支援するため、「国民から信頼される政府」と「強靱な社会」の2つの側面に注目し、中長期にわたり安定的に国家を発展させることを目的とした協力に取り組んでいます。

紛争直後の段階では、行政サービスを再構築するための支援を行い、紛争中に滞っていた基礎的な行政の機能



TICAD7サイドイベントで、政府と住民の信頼関係構築について討議するパネリスト

を迅速に回復することで、平和な日常を取り戻したいという国民の期待に応え、同時に国民と政府間の信頼の回復も目指します。特に、暮らしに直結する地方行政が人々の多様なニーズを正確にとらえ、適切なサービスを提供できるようにするための協力を力を入れています。

また、長期化・大規模化する紛争の影響により難民や国内避難民となった人々への支援や、それらの人々を受け入れる国・地域へのサポートにも取り組んでいます【→下事例を参照ください】。

2019年8月の第7回アフリカ開発会議(TICAD7)ではサイドイベントを開催。協力実績を紹介し、今後の取り組みについて関係国・機関などと議論を行いました。

### パレスチナ 難民キャンプ改善プロジェクト (PALCIP)

## みんなの声でキャンプが変わる



オールドアスカール難民キャンプ改善委員会メンバーとパレスチナ解放機構難民問題局のスタッフ[写真提供：阿部雄介]

JICAはパレスチナ解放機構難民問題局と共に、ヨルダン川西岸地区の3カ所の難民キャンプで住民参加型のキャンプ改善計画づくりと改善事業の実施をサポートしました。

さまざまな立場の住民がプロジェクトに参加しました。「自分は顧みられていない、キャンプの運営は他人事だ」と思っていた女性や障害者、若者も声を上げ、キャンプが抱える課題と目指す姿を何度も話し合って「私たちのキャンプの改善計画」をつくりました。改善計画に基づき、車いす用スロープ

の設置や道路・公園のバリアフリー化が最優先事業として実施され、障害者や高齢者の社会参加を促進しています。

若者の代表としてプロジェクトに参加した女性は「私にもキャンプのためにできることがあると初めて思えた」と話し、難民問題局の職員も「キャンプの人々の真の声を聞き、届けるこの仕事こそが私の誇り」と胸を張ります。

今後もJICAは難民問題局と共に、キャンプの生活改善事業をサポートしていきます。

